

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-131	12-063	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Towards improved alcohol prevention in Swedish antenatal care? スウェーデンの妊婦管理においてアルコール防止は改善したか?		
執筆者		
Skagerström J, Johansson AL, Holmqvist M, Envall EK, Nilsen P.		
掲載誌		
Midwifery. 2012 Jun;28(3):314-20.		
キーワード		
妊婦管理、アルコール、教育		
要 旨		
目的： スウェーデンの妊婦管理における教育努力と改訂アルコール防止ルーチンを評価すること、妊婦管理におけるアルコール問題のさらなる発展のため知見を生み出すこと		
方法： スウェーデンの助産師の2つの国内横断調査を行った。ベースラインデータは2006年に、フォローアップデータは2009年に集められた。スウェーデン妊婦管理センターから、2006年には974名、2009年には1108名の助産師が参加した。アルコール関連問題、リスクの高い飲酒をしている女性の同定、そしてリスクの高い飲酒をしている女性を同定したあとの対応について、継続的な専門的教育の量と質を調べた。		
結果： リスクの高い飲酒を扱う助産師により行われた継続的専門教育の量は2006年と2009年間で有意に増加した。リスクの高い飲酒をみつけるルーチンはベースラインとフォローアップで変化し、2009年にはほとんどすべての助産師がアルコールスクリーニングアンケートをするようになった。この分野で自信がある助産師は2009年にはより多くの時間をスクリーニング、動機づけ面接やアルコールに関連する健康リスクの情報及びアドバイスの提供に関する教育に参加し、また自発的な参加も増加した。		
結論： 今回の結果から、広く国内で成された教育努力によって助産師が知識を強化し、妊婦管理実践を変化させるのに成功したということが示唆された。しかしながら、新しいルーチンの使用は多くの組織的、歴史的な因子によって影響を受けるため、他国や他文化における標準化は限定されるだろう。		